

KIDS SMILE LABO JOURNAL August



夏祭りが残したもの

保育園という場所には、たいてい「園行事」と呼ばれるものがある。

KIDS SMILE LABO にもいくつかの行事があり、そのひとつが「夏祭り」だ。

ひと月以上前から子どもたちが積み重ねてきた取り組みが、この日ひとつの形となった。ただ作業としてこなすのではなく、誰かに言われたからやるのでもない。子どもたち一人ひとりの「こうしてみたい」という思いが重なり合い、時間をかけて育まれてきたものだった。

「なんで夏祭りは今日だけなの？」

そうつぶやいた子がいた。

その言葉は、子どもたちがどれほど心を寄せ、夢中になって取り組んでいたかを物語っていた。いつまでも続けたいと思えるほど気持ちが向いていたのだと思うと、すべての想いに応えきれないことへの申し訳なさを覚える一方で、その一言が、この時間がただの“行事”ではなかったことを確かに示してくれているようで、心が満たされた。

行事ひとつをとっても、「子どものために」と思っていることが、実は大人の都合であることも少なくない。

誰のためなのか。子どもたちは、自分たちの姿を通して、私たち保育者や関わる大人たちにその問いを投げかけ、振り返るきっかけを与えてくれているのだ。

Photo & Text by

子どもたちから〈もりもり〉の愛称で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。5歳と2歳、二児の父でもあり、保育と子育てに日々真摯に向き合っている。趣味は写真撮影で、愛用のカメラは Nikon Zf。もりもりの生み出す、優しく愛で溢れる世界は note にて随時更新！子育てや保育への想いも語っています。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



01

自分たちで作りに上げていく
お祭り

幼児クラスが夏の楽しい一日を
作り上げるまでの様子をご覧ください

02

乳児クラストピック

暑い気候が続いた8月。
乳児クラスが楽しんだ室内遊びは…？

03

旅して出会う、
食とアートと農の北海道

やっちゃん、あーちゃんの
研修報告です。

kidssmilelabo.com

Instagram @kidssmilelabo
YouTube KIDS SMILE LABO

Facebook @kidssmilelabo
Twitter @KIDS_SMILE_LABO



Over the past month, each class has been bustling with activity.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.
This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

自分たちで作りに上げていく 夏祭り

text by Reiji Akamatsu

毎年恒例行事となっている「夏祭り」。
KIDS SMILE LABO の夏祭りは、当日を迎えるまでに子どもたちが主体となって
作り上げられていきます。

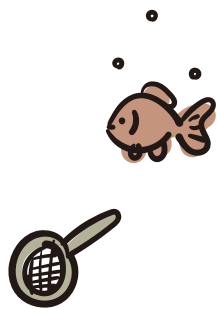
お店づくりの始まり

はじめに「どんなお店をやってみたい？」と問いかけると、子どもたちからは「おんせんやさん!」「きんぎょすくいやさん!」と次々にアイデアが飛び出しました。全部で 15 個ものお店が出たため、そのまま全部を実現するのは難しい状況に。
そこで絵本をもとに「似たお店をくっつけてみるのはどうかな?」と提案すると、
「くじびきやさんは当たりが出たらジュースをあげたい!」
「おんせんやさんも入った後に、ジュースを飲めるようにしたいからつながるね」
「おりがみやさんは折り紙でコーヒーをつくりたい!」
「コーヒーも飲み物だから一緒にできるんじゃない?」
と保育者が決めなくとも、子どもたち同士で対話を重ねながら納得のいく形を見つけていきました。
最終的に、□おんせんやさん、くじびきやさん、おりがみやさん □きんぎょすくいやさん、ヨーヨーすくいやさん □つりやさん、おもちゃやさん、おにぎょうやさん
の 3 つのグループ、計 9 つのお店をすることになりました。



試して、考えて、工夫して

各チームでは早速円になって作戦会議が始まります。絵を描きながらイメージを膨らませたり、実際の映像を見たりしながら、「これを使ったらいいんじゃない?」「こうしてみる!」と意見がどんどん出てきました。必要なものを考えたり、どうするか試行錯誤したりする中で、保育者が「こう作るんだよ」と示さなくても、自分たちで工夫しながら形にしていける子どもたち。
たとえば、きんぎょすくいやさんとつりやさん。段ボールや紙で作った金魚や魚を水に浮かべたいとのことで、実際に水を張ったバケツに浮かべてみると、「やぶれちゃった!」「ぼろぼろだね…」と紙と水の相性の悪さを実感。そこから「キャップにカラーセロファンをつけて金魚にしよう!」「魚は水を入れなくても遊べるよね」と、子どもたちなりに解決策を導き出しました。
また、チーム内で字が書けなかったり、作りたいものが作れなくて困っている子がいると、年上の子が書いてあげたり、作り方を教えてあげるなど、異年齢での自然な関わりも見られました。



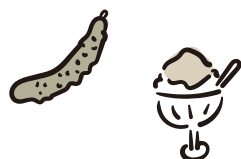
お祭りごっこで気づいたこと

少しずつお店が形になってきた頃、自分たちだけで「お祭りごっこ」を試みることにしました。
チームごとにお店を巡り、お客さんになってもらった人から感想を聞きます。
「くじびきやさんのくじを引く箱は、小さい子は手が届かないんじゃない?」それを受けて「じゃあ斜めにする?」と改善案が出たり、「おりがみやさんに行ったけど、ほしいおりがみがもうなくなってた」という声に対しては、「同じものをいくつかつくったらいいね」と実際に体験してみたからこそ見えてくる工夫や発見がありました。



本番に向けて

七夕が終わってから約 1 ヶ月半。
チームのみんなと相談したり、時にはつまずいたりしながらも、一緒の方向を見て、目標に向かって歩んできた時間は、とても大切な時間だったと思います。準備から当日を含め、子どもたちの心に残る夏祭りになることでしょう。



子どもたちの作り上げたお祭りは無事、大成功で終わりました★
当日の様子は instagram をご覧ください。



Nobana

汚れても大丈夫！表現する楽しさ

のはなさんになって初めてのアートの日。講師のきこちゃんに会うのも今回が初めてです。これからどんなことが始まるのだろう、と子どもたちはどきどきわくわくしながら、少し落ち着かない様子も見られましたが、説明を聞くと、さっそく手を動かしました。

「なにかからさわってみようかな」と、目に入った素材、気になった素材に手を伸ばし、触れるところからスタート。

触っているうちに「おさかなつりのぼうふたい」「きょうりゅうのうんちだ」と、感触や形から想像を膨らませて表現を楽しむ姿がありました。

色水やスライム、絵の具は普段から親しみのある素材ですが、今回は特別なアートの日。幼児クラスのお兄さんお姉さんがダイナミックに表現する姿を間近で見て、のはなさんも真似をしながら、床が水浸しになるほど色水の実験を楽しんだり、全身がスライムや絵の具だらけになるほど夢中で触を味わいました。

これまでののはなさんには、衣服や手足が汚れることを少し苦手と感じる子が多いように感じていました。けれど今回のアートの日を通して、「汚れても大丈夫」「やってみると楽しい」という気持ちが少しずつ芽生えたように思います。

この経験が、新しいことに挑戦する勇氣や、より大胆な表現への一歩につながっていくのだらうと思います。自由に表現する心地よさ、夢中になって全身で表現を楽しむ気持ちが、今後のアート活動にもつながっていったら嬉しいです。

Text by Yumiko Sakai



Soyokaze

ワクワクままごと！ さあ遊ぼう！

先月のジャーナルで紹介した工事現場こっこから始まり、様々なこっこ遊びを楽しむようになってきたそよかぜさん。こっこ遊びが子どもたちの好きな遊びの一つとなり、なかでもままごとは子どもたちのお気に入り。お料理をしたり、野菜の収穫をしたり、お人形のお世話をしたりと毎日とても大忙しです。

抱っこひもをつけて「きらきら星」を歌いながら優しく体を揺らす姿や、「お布団かける？」と声をかける姿は、保育者の姿をよく見ているのだなあと感じます。

最近ではおしゃれにも興味が広がり、布を見つけて「頭に巻きたい！」「スカートも履く。」と楽しむ姿が見られるようになりました。「かわいい！」「良い感じ！」と友達同士で声をかけ合う姿に思わず微笑んでしまいます。

ままごとを通して友達や保育者との言葉のやりとりも増え、「ピクニック行こっか！」「いつてきまーす！」と賑やかな声を響かせながら、子ども達は想像の世界をどんどん広げています。「人が始めた遊びや言葉によって、「私も！」「僕も！」と次々に仲間が集まり、遊びがみんなへと繋がるようになってきました。

時には、「これ使いたい！」「私の！」とトラブルになることもあります。保育者が間に入り気持ちの伝え方を丁寧に伝えることで、「貸して。」「あとでね。」とやりとりする場面も少しずつ増えてきました。

友達との関わりを通して、イメージややりとりがどんどん豊かになってきたそよかぜさん。これからも友達と一緒に過ごすと楽しさを感じながら、のびのびと遊んでいく欲しいと思います。

Text by Rika Fujita



Komorebi

水の心地よさに出会って

気温の高い日々が続いていますが、室内ではたくさん歩いたり、保育者とのやり取りを楽しんだりしながら、ゆったりと過ごしています。

この時期ならではの楽しみといえば、プール遊び。

最初はプールが置いてある浴室の環境に慣れず、保育者から離れることが不安で泣いてしまう姿や、水に触れることを嫌がってなかなか遊び込めない姿もありました。

そこでトイレ横のシャワースペースに小さなプールを置き、少しずつ水と触れ合う機会を作りました。すると、水に濡れるのを嫌がっていた子や、保育者から離れることが不安だった子も

徐々に慣れ、バシャバシャと水面を叩いたり、水風船を握りつぶして遊んだりする姿が見られるようになりました。水遊びに慣れてきたところで浴室の大

きなプールへ行くと、プールの端に手をかけ「早く入りたい！」とアピールする子どもたち。プールの中ではお気に入りの水風船で遊んだり、保育者が吹いたシャボン玉に触れたり、のびのび遊び、プールでの時間を満喫しています。

今では顔に水がかかってもへっちゃらで、大喜びしながら遊ぶ子もいるんですよ！

水の心地よさを全身で感じ、楽しめるようになった子どもたちの姿から、日々の経験の積み重ねの大切さを改めて感じました。

今後も安心できる環境の中で、様々な遊びを通して子どもたちが発見や喜びを感じられるように関わっていきたいと思います。

Text by Mami Matsuda

